

# 塩化カリ施用がアセロラの耐寒性に及ぼす影響

野村 哲也

## 緒 言

アセロラ (*Malpighia emarginata* DC.) は西インド諸島, 熱帯アメリカ原産の熱帯果樹で, 1946年, アセンジョウらがビタミンC高含有果実として発表して以来, 栽培, 成分等についての研究が行われるようになった。1果実中(約10g)に120~170mgのビタミンCを含んでおり, 1日の成人当りの必要量50mgをはるかに超えている。耐寒性が弱く, 当場では室外での越冬が困難なためハウスで栽培している。栽培上は耐寒性を付与する方法があれば非常に有利に果実生産できると思われ, また期待されている。本実験ではアセロラを室外で栽培し, 塩化カリが生育及び耐寒性にどのような影響を与えるかを, 落葉数を主に調査した。

## 材料と方法

材料は, 挿し木由来の6年生の甘味系苗を供した。用土は, 土と鹿沼土の1:1の混合土をプラスチック8号鉢につめ(約6.0kg), 1鉢当り1本植えとした。実験は1990年12月から1991年3月まで行った。

試験区は, 鉢当り, 塩化カリ1g施肥区, 5g施肥区, 10g施肥区, 20g施肥区, 対照区とし, それぞれ2鉢ずつの計10鉢を用いた。実験は, 室外の寒冷紗610#の黒1枚被覆の下で行った。実験開始時の葉数は第1表に示すとおりであった。調査は, 落葉について1週間ごとに行った。

第1表 実験開始時の葉数

塩化カリ施肥区	1 g	5 g	10 g	20 g	対照区
葉数(枚)	123	90	120	138	138

## 結果と考察

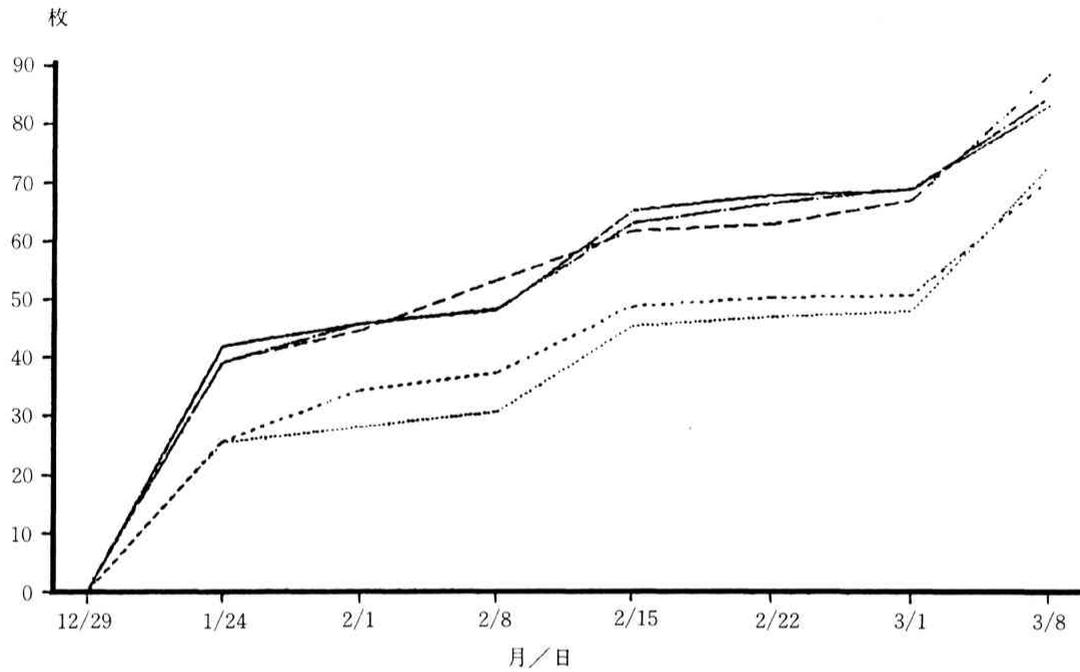
実験期間中落葉状況は第1図に示したとおりである。実験開始時の葉数が, 塩化カリ施用区によって, それぞれ異なったため開始時の葉数を0とし落葉率で表した。1991年3月8日の調査で最も落葉数の多かったのは20g施肥区の88%, 施肥5gと10gは対照区の84%より小であった。

20g施肥区では, 1月24日(実験開始26日後)調査時に葉先に濃度障害が見られ, 塩化カリの過剰施用が原因と思われる。

調査期間中の気温は, 第2図に示したとおりである。全体的に落葉が多く見られたのは2月8日から2月15日の間と, 3月1日から3月8日の間であった。2月8日以前に4日続けて, 3月1日以前には, 6日続けて最低気温が5℃を下回った。中でも2月22日と26日の2日は気温が氷点下であった。これらのことが落葉に影響していると思われる。データは示していないが, 気温が高くなった4月下旬には, 落葉の少なかった施肥区の新芽の発芽が早かった。

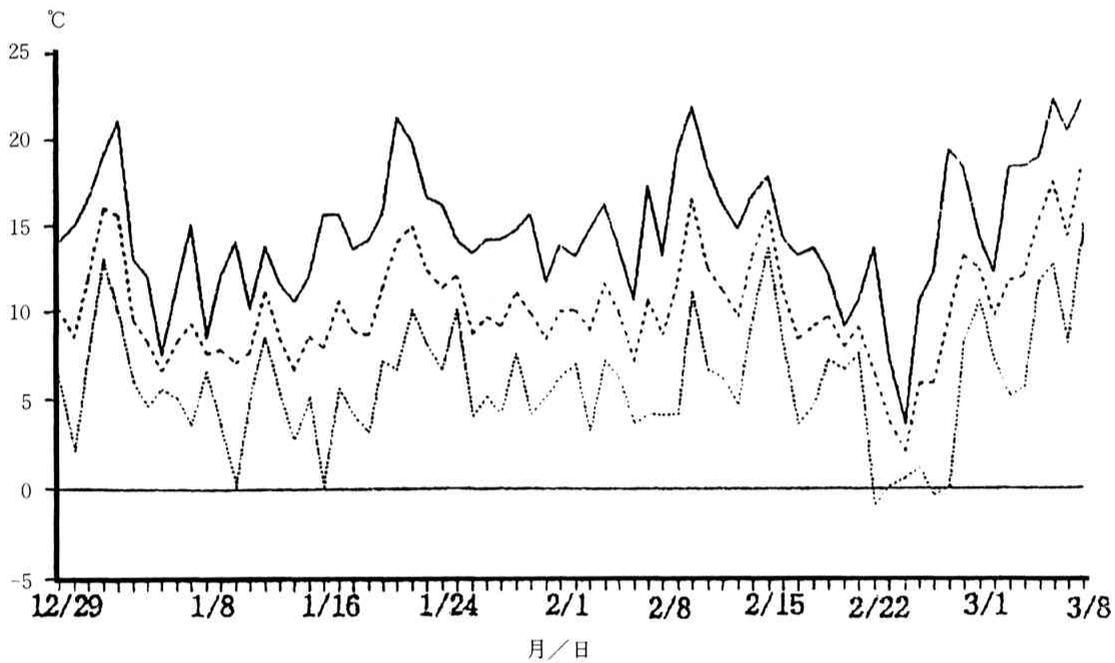
以上のことから, 耐寒性を付与するには塩化カリの8号鉢に対しての施肥量は5~10gが適当だと思われ, それ以上の施肥は濃度障害の原因となる事が分かった。

今後は塩化カリだけでなく, 別の肥料との組み合わせにより室外でのアセロラの生育及び耐寒性にどのような影響を与えるか検討していきたいと思う。



第1図 アセロラの落葉率の推移.

— 塩化カリ 1 g    ··· 5 g    ····· 10 g    --- 20 g    - - - 対照



第2図 実験地の気温の変化(1990-1991).

— 最高気温    ····· 最低気温    ····· 平均気温